

センバツ県勢2校

一般枠で初

帝京長岡初出場 日本文理6回目

第98回選抜高校野球大会(3月19日開幕・甲子園)の出場32校を決める選考委員会が30日、大阪市で開かれた。昨秋の北信越大会を制した帝京長岡(長岡市)の初出場と、同大会準優勝の日本文理(新潟市)の12年ぶり6回目の出場が決まった。

県勢のセンバツ出場は2014年の日本文理以来、12年ぶり。2校同時出場は、一般選考枠の日本文理と21年ぶり、一般選考枠で2校同時出場するのは世紀枠の佐渡(佐渡市)が11年ぶり、15年ぶりとなる。春夏通じて帝京長岡は初めての甲子園出場、日本文理は春夏合わせて18回目の甲子園。



春夏通じて初の甲子園出場を決めた帝京長岡の選手たち＝30日午後、長岡市



12年ぶりのセンバツ出場を決めた日本文理の選手たち＝30日午後、新潟市西区

帝京長岡は1年生エース工藤壱朗投手を中心に、機動力も絡めて北信越大会を勝ち上がり、決勝で日本文理との県勢対決を制した。日本文理は秦碧羽内野手を軸とする強力打線が武器。

出場が決まると選手たちは喜びを爆発させた。帝京長岡の鈴木祥大主将は「甲子園の切符をつかめたのは皆さんのおかげ。一勝一勝大事にして優勝を目指す」、日本文理の渡部倖成主将は「選ばれたからには全員一丸となって戦っていく」と語った。